

沖縄 共に平和歩む

小中高生が現地で誓い

核廃絶を目指し、多くの人が原爆死没者に祈りをささげた6日。県内の小中高生が広島市の平和記念公園を訪れ、平和な世界の実現に向け、誓いを立てた。

(我喜屋あかね、島袋晋作)

自分たちがつなぐ

広島被爆者援護会が主催する第20回「献花・献水慰霊式」

には、北谷高校2年の宇江城拓真さん(17)と津山竜大さん(17)が参列した。2人で考えた平和の誓いを読み上げたほか、北谷町内の全小中高校の生徒が折った千羽鶴を奉納した。

**北谷高
宇江城・津山さん**

「平和について考えたい」と、2人は同町が毎年派遣している慰霊式への参加を希望した。平和の誓いでは、援護会だけでなく、東京都や愛知県など各県からの参加者が見守る中、集団的自衛権について「戦争への道を一歩ずつ進んでいるよう」と指摘。「一人一人が戦争を起さずにはいけないという思いを持ち続けることが大切」と誓った。

宇江城さんは「戦争体験者が高齢化する中、若い世代の自分たちが(体験者の)話を聞き、次の世代につなげたい」と力を込めた。

石垣市平和大使の名蔵中1年の當銘和輝さん(12)と3年の高宮春花さん(14)は広島国際会議場であった「青少年平和・文化イベント ヒロシマの心を世界に」に参加。「平和を考える作文」をテーマに考えた作文を朗読した。

當銘さんは「平和への信念」と題し「相手を思いやるなど、

思いやり重ねたい



「平和を考える作文」を朗読した名蔵中の當銘和輝さん(右)と高宮春花さん(左)。6日、広島市・広島国際会議場

**名蔵中
當銘・高宮さん**

小さな行動を積み重ねたい」と決意を述べた。高宮さんは「広島でも沖縄のことを考えてほしい」と沖縄戦や基地問題について触れ、「早く元の沖縄の姿、平和な世界を取り戻そう」と呼び掛けた。

また、糸満市の平和ガイド育成事業で、広島市を訪れている同市の小中学生21人は、石垣市の名蔵中の生徒が参加したイベントなどを見学した。



献花する北谷高校2年の津山竜大さん(左)と宇江城拓真さん(右)。6日、広島市・平和記念公園